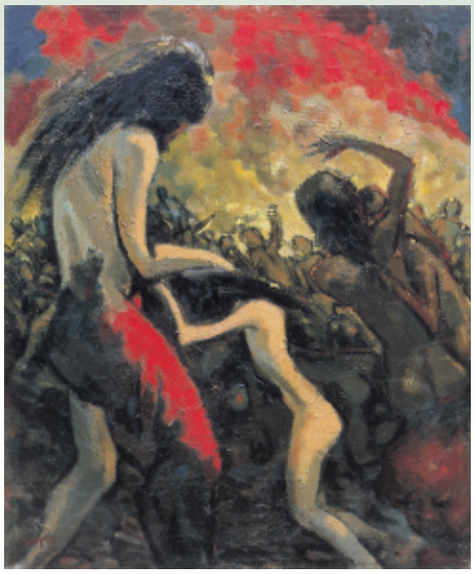
四國五郎展

シベリア抑留から『おこりじぞう』まで

相生橋　1984 年



無題　1951 年

母子　殺されたわが子　1967 年

絵本原画「おこりじぞう」　1979 年

2016 年

6月25日（土）～9月24日（土）

東松山市 岡丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子 1401　電話 0493-22-3266
月曜休館（祝日の場合は翌平日）　8月1日～15 日は無休

1946 年 5 月　ゴーリン病院　1997 年

1．シベリア抑留体験

四國は 1924 年に広島県椋梨（現三原市大和町）に生まれ、広島市で育ちました。44 年 10 月に徴兵され、旧満州の関東軍に入隊。45 年 8 月にソ連軍の捕虜となってシベリアへ抑留されます。そこで強制労働に従事し、栄養失調・凍傷で入院。47 年夏にナホトカ終結地に移動し、48 年 11 月に広島へ戻りました。過酷な状況の中で、四國は軍靴の奥に隠した豆日記を書き続けました。帰国後は、その日記をもとに、自伝『わが青春の記録』を書き上げます。90 年代には 2 度シベリア墓参の旅に参加し、抑留体験を絵に描きました。

ナホトカ収容所　1947 年

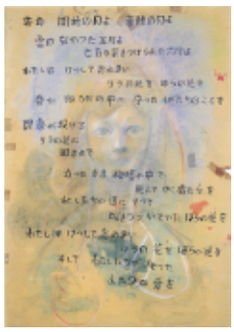
ナホトカでのスケッチ 1947 年

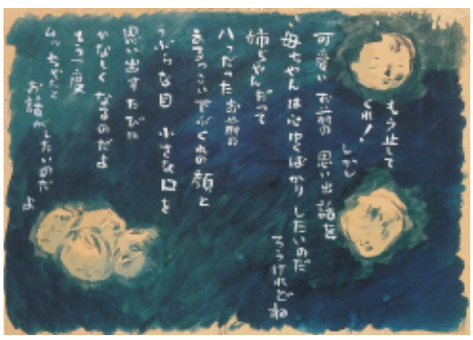
伐採作業　1997 年

わが青春の記録　1950 年

2．辻詩と『われらの詩』

帰国した四國は、広島の惨状と弟・直登の被爆死に衝撃を受けました。49 年には詩人・峠三吉の誘いで「われらの詩の会」に参加。サークル誌『われらの詩』や『反戦詩歌集』の表紙画を手がけるとともに詩も発表し、言葉と絵による平和運動を展開しました。また、占領下にゲリラ的に街頭に提示した手描きの反戦ポスターは、峠との共作で「辻詩」と名づけ、53 年に峠が死去するまで作り続けました。今展では現存する 8 点の辻詩を展示します。





3．平和のために

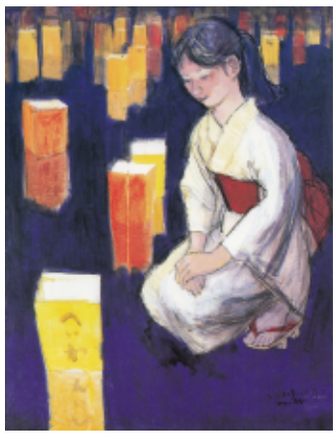
生涯をかけて平和のための詩や絵を描くことを決意した四國は、55 年に「広島平和美術展」を創設し、以後、運営にかかわりながら、数多くの絵画を発表していきます。また、74 年の NHK 広島局「市民が描いた原爆の絵」募集の際にはテレビ番組に出演して呼びかけるなど、「絵と言葉による記録」に多くの人が参加するための基盤づくりに尽力しました。

四國五郎展
シベリア抑留から『おこりじぞう』まで

母子署名　1962 年

鳩笛　1977 年

広島原爆資料館　1975 年



ひろしまの夏（灯ろう流し）1978 年

三吉忌　1990 年

影　1990 年

子どもたちへ　1997 年

4．絵本『おこりじぞう』など

70 年に詩画集『母子像』（詩人会議）を出版するなど、絵と言葉による表現を試み続けてきた四國の仕事で、もっとも広く知られているのは、絵本『おこりじぞう』（山口勇子作、金の星社、1979 年）の表紙画・挿画の仕事でしょう。また、元原爆資料館長の高橋昭博氏の被爆証言を絵本やスケッチブックに描き、国内外へ広めるための手助けもしました。その原画はデジタル化され、現在はマサチューセッツ工科大のサイト Visualizing Cultures で公開されています。

絵本原画「おこりじぞう」　1979 年

御庄博実第二詩集未使用挿画 1998 年

峠三吉のガリ版『原爆詩集』(1951年)の表紙絵や絵本『おこりじぞう』(1979年)の挿絵を手がけるなど、広島で生涯をかけて「反戦平和」を見つめながら表現活動を続けた画家・四國五郎(1924～2014)。

1944年に徴兵されてシベリア抑留を体験し、1948年の帰還後は峠三吉らとともにサークル誌『われらの詩』の刊行や、反戦詩と絵を一枚の紙に描いて街頭に貼ってまわる「辻詩」の活動を展開。1950年10月、丸木夫妻の《原爆の図》全国巡回の出発点となった広島での展覧会を支えたのも、峠や四國ら「われらの詩の会」の仲間でした。その後も「広島平和美術展」を組織・運営しながら、原爆や母子像をテーマにした絵画や絵本を描き続けるなど、「平和」への思いを貫きました。

今展では、シベリア抑留時代のスケッチから、被爆死した弟の日記、峠三吉や丸木夫妻との交流を示す資料、辻詩、絵画、絵本原画などを紹介し、四國五郎の遺した幅広い表現とその意味を振り返ります。

自画像　1967 年

峠三吉像　1977 年

原爆の図丸木美術館での四國五郎展へのメッセージ

ジョン・ダワー(マサチューセッツ工科大学名誉教授)

「原爆の図丸木美術館」に常設されている丸木位里・赤松俊夫妻の「原爆の図」と一緒に四國五郎の作品が展示されるのは、なんともすばらしい機会である。

この三人の作品は、単に1945年8月に日本に投下された原爆の恐ろしさを思い起こさせるだけではない。戦争と平和がいかに絡み合っているかということを作品を観る者の心にうったえてくるし、創造性豊かな三人の作品から私が個人的に受ける忘れがたい印象は、美と創造性と平和、さらには人間の命の大切さの深淵な確認ということである。

私は、1980年代に、丸木美術館を幾度も訪ねたが、それが丸木夫妻に関する英語の本とドキュメンタリー映画製作へとつながった。広島・長崎原爆投下60周年にあたる2005年には、四國五郎の見事な絵で描かれた被爆者証言を、当時私が勤めていたマサチューセッツ工科大学の援助で運営するネットサイトに載せることができた。日本の丸木夫妻と四國五郎の作品には、他には類がない密接な関連性が見られる。三人の作品は、核戦争というものがいったいどんなものなのかを世界中の人々に思い起こさせる上で、特別な力強さを持っている。

私の祖国である米国でも、また日本でも、軍国主義が再び台頭しつつある今、四國五郎と丸木夫妻の芸術作品は、今まで以上に緊迫性をもって私たち一人一人に語りかけてくる。

2016年3月21日　翻訳:田中利幸(歴史学者)

チラシ持参の方は、美術館入館料が100円引になります

〈会期中の関連企画〉

●オープニング・トーク「四國五郎という画家がいた」
6月25日(土)午後2時
出演:四國光(四國五郎長男)、永田浩三(武蔵大学教授)
ご長男である四國光さん、今夏に『ヒロシマを伝える～詩画人・四國五郎と原爆の表現者たち～』(WAVE出版)を刊行予定の永田浩三さんをお迎えして、生涯をかけて原爆・平和を描き続けた四國五郎の人となりや仕事についてお話し頂きます。

●丸木美術館ひろしま忌　8月6日(土)
午後2時　城西川越中学・高校　和太鼓演奏
午後3時　木内みどり　絵本『おこりじぞう』朗読
午後4時　坂田明ジャズライブ
午後6時　ひろしま忌の集い・とうろう流し
原爆で亡くなられた方々の霊を悼む、丸木美術館ひろしま忌。出店やフリーマーケット、工作教室などもありますので、一日ゆっくりお過ごしください。

●対談「四國五郎の画業を貫くもの」　9月3日(土)午後2時
出演:川口隆行(広島大学准教授)、小沢節子(近現代史研究者)
連合国軍占領下、そして朝鮮戦争がはじまり言論統制の厳しい時代の広島で、峠三吉とともに展開した「辻詩」活動。その活動の意味を検証しつつ、1970年代「市民の描いた原爆の絵」の募集に関わり、自らも新たな表現を模索していった四國五郎の画業について、丸木夫妻との交流や《原爆の図》との比較考察を踏まえて、振り返ります。

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

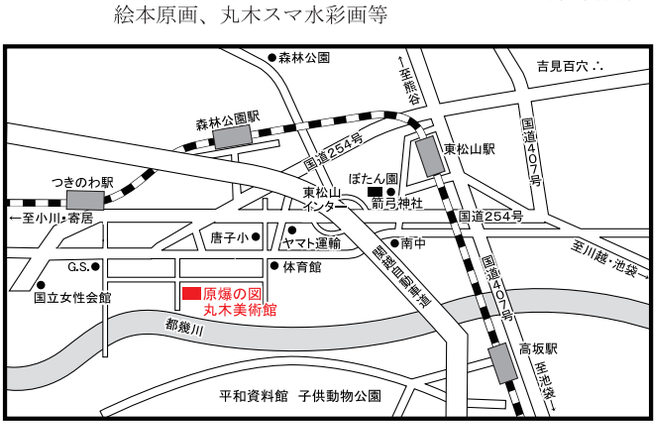
〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401
TEL 0493-22-3266　FAX 0493-24-8371

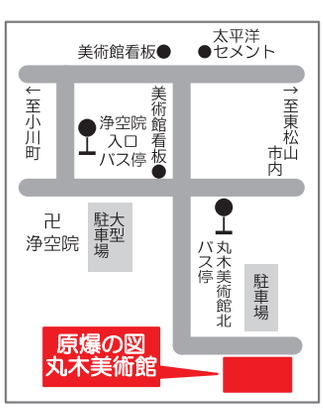
5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

［常 設 展］「原爆の図」連作
「水俣の図」
「南京大虐殺の図」
「アウシュビッツの図」
「水俣・原発・三里塚」
絵本原画、丸木スマ水彩画等

［開館時間］午前９時～午後５時
［休 館 日］月曜日(祝日の場合は翌平日、8/1～15は無休)
［入 館 料］大人900円　中高生または18歳未満600円
小学生400円　団体(20名以上)、60歳以上、チラシ持参者、比企地区在住者100円割引
障碍(しょうがい)のある方は半額

［U R L］http://www.aya.or.jp/~marukimsn/
［Eメール］marukimsn@aya.or.jp
［交　　通］●東武東上線森林公園駅
南口よりタクシー10分、徒歩50分
●東武東上線東松山駅・高坂駅より
市内循環バス唐子コース(日祝運休)
「浄空院入口」「丸木美術館北」下車
●関越自動車道
東松山インターより小川方面10分
●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい





【市内循環バス唐子コース時刻表】

○丸木美術館行き（日祝運休）

08:05	東松山駅東口→08:22 浄空院入口
11:12	東松山駅東口→11:29 浄空院入口
12:07	高坂駅西口→12:25 丸木美術館北
13:12	東松山駅東口→13:29 浄空院入口
15:22	高坂駅西口→15:40 丸木美術館北

※帰りの時刻はお問い合わせ下さい。